

みなと 物語



モダニズムの風が吹く 今も残る近代建築

大正の頃、築港は東洋のマンチェスターと称されるほど繁栄していました。貿易の拠点となっていた大棧橋を起点に、倉庫や華やかな近代建築が次々と建てられモダンな街並がひろがっていました。

大正12年(1923年)に建設された「築港赤レンガ倉庫(旧住友倉庫)」は、築港から荷揚げされるたくさんの物資を保管し、貨物列車で各地へ運搬する重要な役割を担っていました。平成11年(1999年)に倉庫としての役目を



築港赤レンガ倉庫

終えましたがそのレトロな姿を今も見ることができます。

港通り沿いには並んで建つ2つの近代建築が残っています。昭和8年(1933年)に建設された「商船三井築港ビル(旧大阪商船ビル)」は当時3階建てで、大阪商船の待合いとして使用されていました。3階には見晴らしのよい応接室



商船三井築港ビル(昭和25年頃)

もあったそうです。今は、デザイン事務所やギャラリーなどが集まっています。お隣の「天満屋ビル」は昭和10年(1935年)に建設されました。濃い色のスクラッチタイルと丸みをもたせたコーナー部、大きな丸窓など近代建築ならではの手法が用いられています。今はモダンな雰囲気を楽しめる喫茶がオープンしています。2つのビルがともに現在2階建てのように見えるのは、戦後に行われた盛り土によって土地全体がかさ上げされたからだそうです。築港地域は、美しいウォーターフロントとレトロな建物が残る、味わい深い場所となっています。



天満屋ビル(昭和10年頃)